



# 今月の大槌とびと

## 元気なご近所プロジェクト事務局

祝田 弘志 さん

住宅再建、災害公営住宅への入居が進み、町内会、自治会をはじめとするコミュニティ形成が必要になってきています。今月の大槌びと祝田弘志さんは、新町にあるおおつちコミュニティプレイスで地域コミュニティの立ち上げや運営の支援の窓口になっています。

### 楽しく安心して暮らせるように

生活再建が進み、震災前の地域コミュニティの状況から大きく変化しています。住宅再建や災害公営住宅に入居した地域で、顔なじみの人がほとんどいないという人も少なくないと思います。そして、被災しなかった人も新しく地域にきた人たちのことは中々分からないという状況です。

今は、各地域に配置されている地域コーディネーターと一緒に地域の人たちの顔合わせや元からあるコミュニティの活動支援等を行い、楽しく安心して暮らせる地域になるよう活動しています。

### 地域の実状に合わせた支援を

本当にゼロからコミュニティ形成をしていかなければいけない地域、ある程度コミュニティが出来上がっている地域の活動支援など地域の特徴や課題は様々で、実状に合わせた支援を心がけています。コミュニティができていない地域は防災勉強会や補助金についての相談を受けることもあるし、ゼロから始める地域は顔合わせからなので、時間をかけながらすこしずつ進めています。顔合わせに参加した人たちから「近所の人たちと知り合いになれてよかった」「もっと早くやってほしかった」などの声が聞こえてきたときはとてもうれ

しいです。

しいです。

「地域「コミュニティ」＝「自治会、町内会」というイメージを持っている人も多いと思いますが、私たちの目的は「自治会や町内会を作る」ことではなく、「地域の人が楽しく安心して暮らせる環境を作る」ことだと思っています。「自治会や町内会」がその地域に合えばそれでいいし、そういう形を取れなくても「ミ当番や広報の配布などが地域の中でうまく回っていくようであればいいんです。

### 地域だけでは達成できないことを「コミュニティ協議会」で

年に2回コミュニティ協議会を開催しています。この協議会は自治会や町内会はもちろん、その他の団体が集まり、地域の実状や課題、達成したいことなどについて話し合います。8月に開催したときは約100



名が集まりました。話し合いの中には、一つの地域では解決できない課題や活動があり、各団体の経験談を共有して解決の糸口を探します。

この協議会は、地域コミュニティの活動を活性化させるきっかけになると思っているので今後も継続していきたいです。